



月刊 第586号

# 高速艇と温泉の初夏

すでに初夏を思わせるキラキラ輝く朝日の中で元気に育つ早苗が整然と並ぶ田甫を心地よい風が吹きわたる。芽吹緑豊かな森や山々を映して一杯に水を溢えて広がる田甫、みづはの国の風情である。

「みどり」と言ってもこんなにも多種多様な色があったかこの季節の山々は丁度迷彩服をまとっているようである。芽吹きは日に日に木々をふくらませついこの前まで稜線をきわ立たせて険しい姿だった山々は丸々

とふくらんで優しい姿に変わってゆく。その中で点々と彩りとなっていたコブシの白や薄桃色の桜が姿を消して、変化に富んだ緑色もやがて朴の木や天辺に大ぶりの花が咲き初めると濃い緑色に埋めつくされて夏山の姿となる。

春先から次々に食卓を味覚と話題で賑わわせてくれた山菜採りの姿もめっきり少なくなり藪の中に育つ長くて柔らかいワラビと茗荷が出ると秋の季節までお休みとなる。畠ではニドイモ、サンドマメが随分成長し、ナス、キヌウリ、トマトなど夏野菜の苗が売り出され最近ではめっきり作り手が老齢化して放置されたままの畠も目につく状況とは言いながら野

菜作りの楽しみは格別のように結構若い人達も参加し始め畠談義もはずんでいる様子。やはり今号は白山様の祭りを外すわけにはいかない。まさに今年のお祭りは心配なしのお天気に恵まれて、挙行合図の花火も五月晴れの空に一段と元氣よくはじけたように感じられた。

今年のカミからのお興様渡御で神楽は六区の当番。おなじみの白の上下に黄色の帯を結んで緑の唐草に獅子頭のいで立ちが昔のまま。最近では格好の良いトレーナー等色々出廻っているのにも思われるが、やはりこの姿が寺泊の祭りには一番似合っているのかも知れない。ピッピの先導にマイクの家内役が先布令をして廻る。下げた

祝儀が巻き上げられお盆に祝儀袋をのせて神妙に頭を噛まれて息災を念ずる。本来は神輿の渡御に先駆けてのお祓いの役目なのだろうがいつの頃からか心付けの祝儀もからんで一軒づつ廻るようになったのだと思われるがそんな歴史も調べてみると面白いように思われる。昔は商売屋や旦那衆の家へだけ入ったが聞いたような覚えがあるのだが。祭りのあと観光シーズンへ向ってのこれ又今年の観光寺泊の繁盛を願っての観光祭りが二十二日に催された。メイン会場の海浜グラウンドには大漁旗が張り廻らされ屋台やフリーマーケットが出店、よさこいフェスティバル寺泊と銘打っての踊りには県内外から七十五チーム千五百



弥彦山中腹から野積、寺泊方面を望む。海と川と山と調和のとれた自然環境である。越中の山々が遠景。



緑一杯の弥彦山、角田山を早苗の育つ田甫に美しく映して閑かな風景である。空は日に初夏、あゝ越路にしあらば。



ハマダイコンの花筈。海岸に広がる草群には思いがけない花々が咲き広がっている。これからは振り花の群生が見られる。



神輿はその年の厄年に当る青年達が担ぐ。誰方か知った顔があるでしょうか。ニコニコしていますが、かなり重いので時々選手交代。



八幡さまの祭り囃子のグループは後継者の育成にも熱心に取り組んでいる。小学生や女性も参加。



天狗役は祭りが近づくと毎夜練習に励むと聞いているのだが、最近は何も練習もなく、どの程度練習しているのだろうか。カラス天狗は？

人もの踊り手が集結、前夜祭は文化会館はまなすで開催、当日は各地区に分散しての踊りが朝からハイテンポで展開、国道四〇二号線一部は迂回路で交通止めとして老若男女が各チーム毎に次々と流し踊りを披露、寺泊からはソーランウエーブ寺泊とよさこい真凧の二チームが出場大いに気を吐き見物から声援と拍手、長期予報の天気間違い無しが修正、少々奇し気な天候になつたものの夕刻小雨がバラツク程度で総踊りと花火の打揚げめでめでたく幕を閉じることができた。

今年は何と言つても六月からの高速艇の就航と野積で温泉掘削に成功、一日百五十トン以上の涌出量、湯温四七・五度、泉質はナトリウム、カルシウム塩化物泉とのことで現在経営のホテル飛鳥で使う二倍以上の湯量とのことで日帰り温泉施設を計画とのこと、寺泊観光が新たに躍進の年となるか。

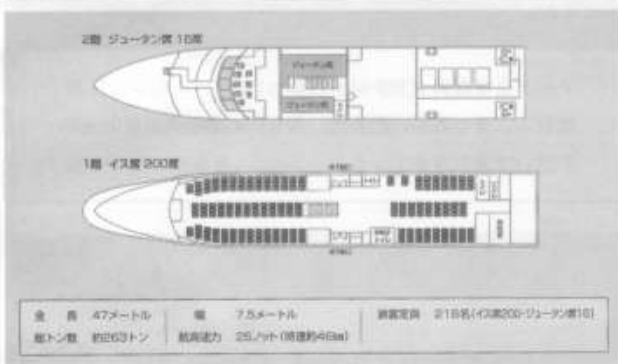
### 海と川と

さとうのぶひと

4月29日(金)から始まった今年のゴールデン・ウィーク。職場によっては10連休になるなど、運のいい人には思いがけない休日のプレゼントです。寺泊ではその間、白山媛神社の大祭があります。昔のように、お祭りの「およばれ」で親戚縁者が大挙して訪れることは少な

くりましたが、長期休暇を利用してよそへ出かけようにも気がとがめまします。5月3日はともかくも家にいるというのが恒例になっています。しかしゴールデン・ウィーク前半、一泊二日で横浜、東京へ行って来ました。横濱の海と東京の川が見たいと思つて。寺泊に住む者にとって、海と川は最も身近なテーマです。東京駅から横浜のJR桜木町駅下車、「みなとみらい」の一角に横浜美術館があります。現在「ルーヴル美術館展」開催中で、一時間半待たされ19世紀前半のフランス絵画、アングル、ドラクロア、ルイ・ダヴィッド

など73点を見ました。美術教科書でおなじみの絵が何点もあり、実際に目にした感動は「筆舌に尽くしがたい」ところ。実物は予想以上に大きいという印象を受けました。美術館を出て赤レンガ倉庫をひやかし、横浜の海を眺めながら山下公園を散策しました。遠くにベイブリッジが見えます。世界に名だたる横浜港。寺泊港とはスケールが違います。眺めていて変に思ったことがあります。横濱の海は妙に海面が高くて。寺泊の海をいつも高台から眺めていることに気がきました。マリントワーから眺めるとちよūdよかつたのかもしれない。寺泊の海は、緑の高台を背後に控えて。「水川丸」の船内に初めて入りました。役目を終え引退した老船の中は、幽霊でも出てきそうなの、どこかわくわくするものがありました。寺泊港にも「北前船」の一艘はほしいもの。シーバスに乗船し、海に繰り出しました。海上から見る横濱はまさに異国。シーバスは、ゆつくり航行する大型貨物船を足早に追い越します。かつて訪れた新潟東港でも、これほどの船体にお目にかかったことはありませんでした。浅草の安ホテルに泊り、翌日は隅田川を歩いて両国の江戸東京博物館で開催中の「新シルクロード展」を見ようと思いまし



### 時刻表

<b>6月10日～8月10日</b>		<b>8月18日～11月15日</b>	
寺泊発→赤泊着	赤泊発→寺泊着	※9/5～9/7 船舶整備のため運休	
9:00→10:00	6:50→7:50	寺泊発→赤泊着	赤泊発→寺泊着
13:00→14:00	11:00→12:00	9:00→10:00	6:50→7:50
17:30→18:30	15:50→16:50	13:00→14:00	11:00→12:00
		17:30→18:30	15:50→16:50
<b>8月11日～8月17日</b>		<b>11月16日～12月31日</b>	
寺泊発→赤泊着	赤泊発→寺泊着	寺泊発→赤泊着	赤泊発→寺泊着
8:30→9:30	6:50→7:50	9:00→10:00	6:50→7:50
11:50→12:50	10:10→11:10	16:30→17:30	13:00→14:00
15:10→16:10	13:30→14:30		
18:30→19:30	16:50→17:50		



大町の子供かぐら。近頃は少子化の影響で子供集めが大変。親戚へおよばれに来た子や女子も参加でようやくの編成。

た。「春のうららの隅田川」は寺泊の時報チャイムに採用されています。隅田川は東京下町のシンボルです。詩情を喚起する川なのでしょいか、数々の文学作品の背景にもなっています。寺泊は信濃川分水河口という素晴らしい流域景観を誇ります。野積橋と分水河口の景色は寺泊に住む者の心の財産です。しかし、河口を遡り分水可動堰までの間、長い桜並木など見るべきものはありますが、人工の川というイメージが付きまっています。歴史が浅いせいでしょうか、合理性の追求が先立ち詩情に欠けるのです。むしろ可動堰をさらに遡り、与板町との境、岩方、馬越あた

りの信濃川が好きです。馬越島という中州があり、川はゆっくりと流れています。長岡寺泊線の土手にクルマを止め、しばし川の流れを眺めたことが一度ならずあります。さて、浅草国際通りの安ホテルから浅草寺の裏を抜け東へ向かうと、強い川風にあおられて目の前に隅田川が姿を現わします。流域の一部は公園になっており、東京水辺ラインと称する観光汽船や水上バスが運行されています。公園を下流に向かうと吾妻橋。この橋のたもとが水上バス発着所になって、乗船船客で賑わっています。ビルの屋上に掲げた、孫悟空の魁斗雲のような金色に

輝く巨大なオブジェを正面に見、強い川風に吹かれながら吾妻橋を渡り、隅田川をじっくり眺めました。この金色のオブジェは何をかたどっているのか、知っておられる誌友がおられましたら教えて下さい。吾妻橋を渡り切ると墨田区です。南下して隣の駒形橋を渡ります。再び江東区です。川岸は、こりやまたすこい。兩岸ともにホームレスの青テントで埋め尽くされています。駒形橋から川岸の岸壁に降り、青テント村を歩きます。しばらく行くと「ここ行き止まりだよ」と、青テント村の住人らしき人物が教えてくれました。まだ若くて潑刺とした、どこにでもい

る大柄な好青年です。隅田川は江東区と墨田区を東西に切り分けています。川は古来から土地を切り分ける区分線でした。こちの支配者に追い出されたら、向こう岸に渡ればいい。向こう岸でひどい目にあつたら、こちに逃げればいい。川岸にはどっちつかずの自由があります。それと橋。橋には、理解し得ない者どうしが分かり合う夢があります。既橋を渡り、隅田川を合計3回渡って、浅草や両国が隅田川の河原と中州に拓けた街であることを想いました。橋と川という境界の居心地よさは、現代のホームレスに受け継がれているようです。

北本市	小川原	喬	金三千元
浅野	宣子	金五千元	
吉田	守正	金三千元	
久住	吉雄	金五千元	
山田	泰子	金五千元	
古川	豊	金五千元	
石川	和枝	金三千元	
宮前	里子	金三千元	
北村	良子	金三千元	
匿名希望	金一万円		
清水	千代	金一万円	
加藤	千子	金五千元	
本間	スズ子	金三千元	
市川	正雄	金三千元	
桑原	実	金三千元	
山田	新太郎	金五千元	

誌代御後援(敬称略・順不同)



### 小波会五月旬会詠草

兼題 八十八夜・雀の子他  
参道を

八十八夜の雨浄む

外山きよし

洗濯は

八十八夜みな野良着

水沢 蕉子

向い家は

慶事八十八夜かな

外山 海子

水満ちて

田毎八十八夜かな

竹内 霍山

夕日の塔に

昇り八十八夜かな

小島 温石



メイン会場海浜グラウンドの賑わい。  
飲む人、食べる人、売る人、買う人、踊る人とそれぞれの  
思いで楽しみましょう。

露天市

八十八夜のはずむ声

内藤 蓮子

餌ねだる

子雀親を追いまわし

江原 汀子

園児等は

お昼寝タイム雀の子

大越碧水子

雀の子

風の少女を加えけり

小形 美代

もつれつつ

つぶてのように雀の子

小島 冬扇

沢庵の

酸いもまた佳し初夏の風

中村 流氈



佐渡汽船岸壁前の広場でのよさこい。  
ガンガン響く音楽、躍る、はねる、廻る、気合の入った  
掛け声、体力的にも仲々。

吹き割れの

滝の行方や春の月

能登 頑牛

牡丹の夜

大吟醸を小一合

加勢 白汀

### あとがき

今迄寺泊に来たお客さんを案内するに苦労したと言ひ話を時々聞いていた。又観光関係の業者もどこを廻ったらいのかと尋ねられると仲々おすすめのコースがなく、事実私なども風呂が出来たのをいいことに、のんびり風呂でも入ってビールでも飲んで夕日を眺めて夕飯頭帰つてくればなどと言うところに対応していたのだが、観光協会が

中心になつての史跡観光ガイドの養成もどの位の実績をあげているのか聊か疑問である。風呂好きだったり、歴史的な事に興味がありぶらぶら山道を散策するのが好きな人なら兎も角このことについては観光立町を掲げながら難題であつたと思われる。

可能と柔軟な対応。私もメンバーの一人である写真愛好会では六月に蓮華峯寺を中心にしたコースでの撮影旅行を計画今から楽しみにしている。この寺はあじさい寺とも呼ばれこの季節古刹はあじさいの花に包まれる。



出番を待つ面々。気合が段々入って行くのが見える。  
他チームとの和気合々の挨拶と同時に、闘志満々でもある。

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 潟 県 寺 泊 町

発行所 中 村 興 樹

ふるさとだより

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二九九番

電話番号 〇六二一三三五四五

印刷所 吉野印刷株式会社